【関係農家の皆様へ】

県内他地区の畑かんの取組みについて紹介します

肝付町においては、平成 28 年度より畑かんの一部通水が開始され、平成 38 年度までに 522 ｈａの通水が予定されております。通水後は水を使った営農により担い手や収益性の確保が見込まれますが、県内ではすでに全面通水され水を使った高収益農業が取組まれている薩摩半島最南端の南薩地区があります。今月は南薩畑かん事業について紹介し、本町の畑かんの取り組みに参考にしたいと考えます。

南薩畑かんは、国営かんがい排水事業として昭和 45 年から 59 年にかけて 6,072 ｈａの畑に池田湖の水を通水する事業として実施されました。元々、畑地かんがい事業実施以前は、シラス土壌、礫（れき）、コラ等の不良土壌と地形により度々干ばつにより生産性の低い地域でした。

畑かん実施前は、さつまいも、茶、麦、牧草など天水のみで栽培できる作物が中心でしたが、全面通水後はさつまいも、茶に加え、えんどう・そらまめ・キャベツ・オクラ・かぼちゃ等の露地野菜、施設品目としてマンゴー・花・観葉植物など収益性の高い作物の栽培が盛んになっています。ちなみに、昭和 43 年の事業実施前はさつまいもなど普通作物が 5 割を占めていましたが、現在では3割となり、野菜の作付は 2 割から 4 割弱となるなど作物の割合に変化が見られています。一戸当たりの収益性も昭和 50 年の 100 万円弱から 325 万円と約 3.3 倍に増加しています。

このように、水がくることにより栽培する作物に変化が見られ収益性の高い作物が栽培されます。高齢化や担い手不足により農業や農村を取巻く環境は決して明るい状況ではありませんが、水がくることを好機と捉えることにより地域の将来を担える農家を確保したいと考えます。今後も農業や畑かんに関する情報提供を実施して参りますのでご意見やご要望を農業振興課までお知らせください。

南薩畑かんで取組まれている作物等の事例紹介です。

さつまいも畑のかん水風景

レッドキャベツ

実えんどう

マンゴー

茶

観葉植物

問 役場農業振興課
農政係
☎ 0994-65-8417